

安田町役場

Yasuda Town Office

No. 10-070-2021作成

新築
事務所

発注者	安田町	カテゴリー				
設計・監理	清水建設・若竹まちづくり研究所建設事業共同企業体 SHIMIZU CORPORATION Wakayake TownPlanning ReserchInstitute Inc. Construction business JV	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	清水建設・若竹まちづくり研究所建設事業共同企業体	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

生活風景の一部となる、柔らかな大屋根をもつ町役場



特徴的な屋根を持つ外観

庁舎を貫く「やすだモール」

広域的なランドスケープに馴染む大屋根

敷地形状に合わせた柔らかな大屋根は、山から川へと流れる町の稜線に沿い、広域的なランドスケープに馴染む形状とした。

かつて日本の集落では、社寺や豪商の住宅など大きな屋根を持つ建築が集落の中心的存在であった。この庁舎も同様に、周辺環境に馴染む柔らかな大屋根をもつことで、決して権威的にならず、柔らかく町に溶け込むシンボルとなることを意図した。

周囲と調和しながらも存在感のある特徴的な大屋根は、新たな町のシンボルとなる。



広域的なランドスケープとの調和

大屋根を持つ建築

町の新しい「みち」となる空間

庁舎内に外部から連続する「みち」をつくり、住民の生活空間の一部となる場所を目指した。隣接する小学校と八幡宮をつなぐ「やすだモール」を設け、その出入口に「やすだリビング」「やすだサロン」と名付けた多目的スペースの配置し、内外をつなぐ結節点とした。

今では、学校帰りの子どもたちが庁舎内で宿題をしたり、親と待合をする光景が見られる。



新しい「みち」と町との関係

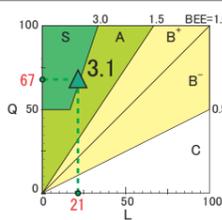
やすだモール

やすだサロン

建物データ	
所在地	高知県安芸郡安田町
竣工年	2021年
敷地面積	4,204㎡
延床面積	3,083㎡
構造	庁舎：RC造、キャノピー：木造
階数	地上3階

省エネルギー性能	
BPI	0.78
BEI (モデル建物法)	0.59
LCCO ₂ 削減	33%

CASBEE評価	
Sランク	
BEE=3.1	
2020年度版 自己評価	



県産木材の積極的利用

森林資源の豊富な高知県の木材を内部・外部とも積極的に利用した。内部ではヒノキの床材、不燃認定の木クロス、集成材やCLTの家具などを用いて木質の柔らかな空間とし、外部ではキャノピーにヒノキ、壁や軒天にはスギを用い、連続する木質空間を構成している。キャノピーは県産ヒノキ材による伝統木造構法の「貫構法」とした。流通製材の長さ4m以下の条件で、軸組を45度振ることにより1.8mのキャンチレバーと継手のない部材構成を実現した。この軸組はアプローチ空間に動きを与えている。



議場

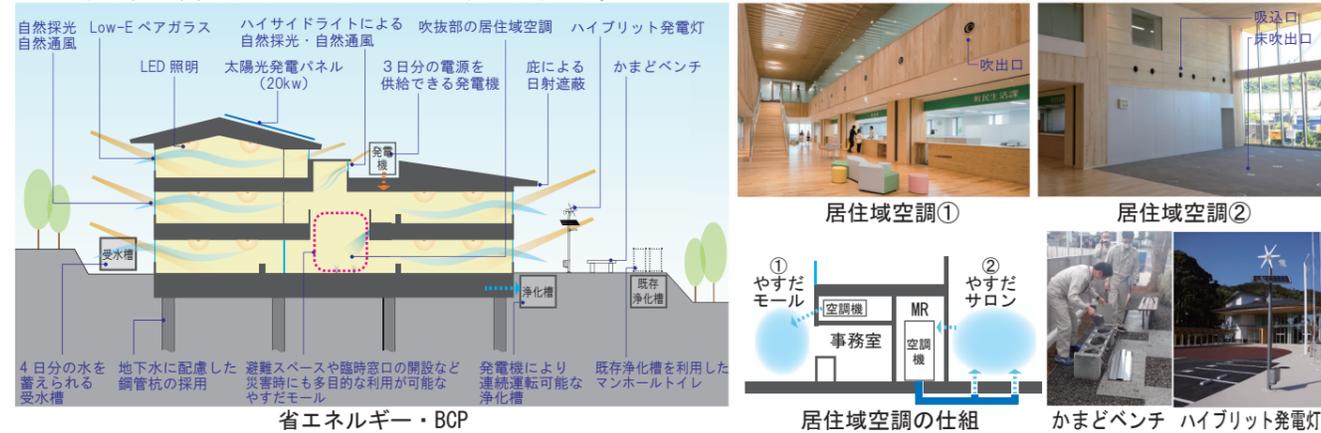
町長室

キャノピー

省エネルギー技術と庁舎としてのBCP対応

温暖で晴天率が高い気候を活かし、自然採光や中間期の自然通風を取り入れ、庁舎内でも外部環境を感じられる空間とした。「やすだモール」「やすだリビング」と大きな吹抜空間は効率的な空調のため、居住域空調を採用した。

BCP対応としては災害後72時間分の給排水・電気を供給できる設備（給水は4日分）としている。また、災害時の拠点として機能できるように、被災時に柔軟に活用できる多目的空間や大きな軒下空間、屋外にかまどベンチや既存浄化槽を利用したマンホールトイレを設け、地域住民の拠りどころとなる庁舎を目指した。



省エネルギー・BCP

居住域空調の仕組

かまどベンチ ハイブリット発電灯

世代を越えて町をつなぐ小学生ワークショップ

普段は見る事ができない建設過程をワークショップを通して体感し、完成後も役場を近い存在に感じてもらうことで、役場や町への意識を醸成することを期待している。庁舎完成時には小学生にタイムカプセルを埋設してもらい、彼らが二十歳になるときに開封される予定である。この庁舎に関わった人々の物語が引き継がれていくことを期待する。



地縄体験

タワークレーン見学

竣工前見学会

タイムカプセル埋設

設計担当者

統括：柿澤英之／建築：水田博夫、佐藤八尋＊／構造：竹内信一郎、米山隆也、田邊之、南博之／設備：堤裕樹、瀧上征、中尾善弘、中野信哉

*株式会社 若竹まちづくり研究所 印無しは清水建設株式会社一級建築士事務所

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (街並みとの調和、広域ランドスケープとの調和)
- Q3. 3. 地域アメニティへの配慮 (町民へ開放する内部・外部空間、ワークショップの開催)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然通風、自然採光、太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、床吹出空調、居住域空調)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮 (LCCO₂削減)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (外装の木質化)